

ユーザーズ・マニュアル

DELAY ETERNITY

ARTURIA®
YOUR EXPERIENCE • YOUR SOUND

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric BRUN Kévin MOLCARD

開発

Alexandre ADAM	Timothée BEHETY	Raynald DANTIGNY	Mathieu NOCENTI
Kevin ARCAS	Corentin COMTE	Pierre-Lin LANEYRIE	Marie PAULI
Baptiste AUBRY	Simon CONAN	Samuel LIMIER	Pierre PFISTER

デザイン

Shaun ELWOOD Morgan PERRIER Antoine PETROFF

サウンド・デザイン

Gustavo BRAVETTI Florian MARIN Victor MORELLO

テストイング

Florian MARIN Germain MARZIN

ベータ・テストイング

Paul BEAUDOIN	Marco CORREIA "Koshdukai"	Jay JANSSEN	Peter TOMLINSON
Gustavo BRAVETTI	Jeffrey CECIL	Terry MARSDEN	Bernd WALDSTÄDT
Andrew CAPON	Ben EGGEHORN	Fernando M RODRIGUES	George WARE
Chuck CAPSIS	Mat HERBERT	Tony Flying SQUIRREL	Chuck ZWICKY

マニュアル

Stephan VANKOV (author)	Vincent LE HEN	Jose RENDON	Jack VAN
Minoru KOIKE	Charlotte METAIS	Holger STEINBRINK	

© ARTURIA SA – 2019 – All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann
38330 Montbonnot-Saint-Martin
FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があり、それについてArturiaは何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部をArturia S.A.の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

Product version: 1.0.0

Revision date: 22 August 2019

Delay Eternityをお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは、Arturia Delay Eternityプラグインの各種機能と使用方法をご紹介します。

できるだけ早めに製品登録をお願いいたします！ Delay Eternityの購入時にシリアルナンバーとアンロックコードをEメールでご案内しております。製品登録時にはこれらが必要となります。

使用上のご注意

仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

重要：

本ソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本ソフトウェアを長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また、年に一度は聴力検査を受けられることをお勧めします。

はじめに

この度はArturia Delay Eternityをお買い上げいただき誠にありがとうございます！

Arturiaのモダンディレイ・プラグインのDelay Eternityをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

より良い製品を作るというArturiaの情熱は、Delay Eternityも例外ではありません。このプラグインをトラックやセンドバスにかけたり、敏腕サウンドデザイナーたちの手によるプリセットを使用するだけでも、プリセットを軽くエディットするだけでも、Delay Eternityはわかりやすく使いやすい、それでいて幅広いタイプのディレイエフェクトを作り出すのに十分にパワフルでフレキシブルにお使いいただけるよう開発いたしました。このDelay Eternityが、あなたの価値あるエフェクトプラグイン・コレクションの1つになり、楽しんでお使いいただけることと確信しております。

Arturiaのハードウェアやソフトウェア製品情報のチェックに、[Arturia](https://www.arturia.jp)ウェブサイトをご活用ください。ミュージシャンにとって不可欠で刺激的なツールが豊富に揃っています。また、日本語での製品情報は[arturia.jp](https://www.arturia.jp)に掲載しております。こちらも併せてご利用ください。

より豊かな音楽ライフを

The Arturia team

もくじ

1. イントロダクション	2
1.1. Delay Eternityの特長は？	3
2. アクティベーションと最初の設定	3
2.1. Eternityのライセンスをアクティベートする	3
2.2. Arturia Software Center (ASC)	3
3. オーバービュー	4
3.1. プラグインとして動作	4
3.2. チャンネル設定 (モノ/ステレオ)	4
4. ユーザーインターフェイス	5
4.1. アッパーツールバー	5
4.1.1. プラグインオプション	6
4.1.2. アリセットライブラリ	7
4.1.3. アリセットクイックロード	8
4.1.4. アリセットナビゲーション (Prev/Next)	8
4.1.5. アドバンスト・コントロールパネルのスイッチ	9
4.2. ロワーツールバー	9
5. コントロールパネル	10
5.1. メイン・コントロールパネル	10
5.1.1. インプットの設定とタイムモード	10
5.1.2. ディレイモード	11
5.1.3. 各ディレイラインのコントロール	13
5.1.4. ビットクラッシャーのパラメーター	14
5.1.5. フィルターのパラメーター	14
5.1.6. ミックスセクションのパラメーター	15
5.2. アドバンスト・コントロールパネル	16
5.2.1. インプットイコライザー	16
5.2.2. エンベロープフォロー	17
5.2.3. LFO	18
5.3. 終わりに	19
6. ソフトウェア・ライセンス契約	20

1. イントロダクション

ArturiaのバーチャルディレイエフェクトのDelay Eternityをお買い上げいただき誠にありがとうございます。Arturiaはシンセサイザーやエフェクトプロセッサの名機を忠実に再現することを自負しておりますが、時折そうしたルールのようなものをかなぐり捨てて、最新の音楽制作やデジタルオーディオ技術のトレンドを採り入れた、まったくの新規設計による製品開発をしております。先進のディレイプロセッサのDelay Eternityへようこそ。

このシリーズの他のプラグインであるMemory-BrigadeとTape-201はビンテージのアナログハードウェアを再現したキャラクターディレイですが、Eternityはバワフルな機能を大量投入したマッシブなモダンディレイで一般的なディレイやエコーから、異次元空間のようなサウンドスケープやテクスチャー感のあるものまで、幅広いディレイエフェクトを作れます。Memory-BrigadeやTape-201にはない機能など、先進のアーキテクチャーと設計により、こうしたことが実現できました。

1.1. Delay Eternityの特長は？

Delay Eternityには、ディレイエフェクトの幅を大きく広げる新機能が豊富に入っています：

- 2系統のディレイラインを内蔵。
- ディレイラインはシリーズ/パラレル切り替えが可能。
- 1msまでのショートディレイを設定可能。
- モジュレーションの可能性を広げるLFOを2基内蔵。
- LFO 2とLFO 1をリンクさせて複雑なモジュレーションを作成可能。
- LFOとエンベロープフォロワーは、モジュールごとに2つのパラメーターを同時にモジュレーション可能。
- ディレイ音に歪みを加えるビットクラッシャー内蔵。
- ディレイ音の音質調整や積極的な音作りに使える9タイプのフィルターを内蔵。
- ビットクラッシャーとフィルターは2つのディレイラインを選択して使用可能。

2. アクティベーションと最初の設定

Arturia Delay Eternity プラグインは、Windows 7以降、macOS 10.10以降のコンピュータで動作します。Memory-Brigadeは、Audio Unit, AAX, VST2, VST3 フォーマットのプラグイン (64ビットのみ) として使用できます。



2.1. Eternityのライセンスをアクティベートする

ソフトウェアをインストールしましたら、次のステップはライセンスをアクティベートします。そうすることで、ソフトウェアを無制限に使用できます。

アクティベーション作業はArturia Software Centerというアプリケーションで行います。

2.2. Arturia Software Center (ASC)

ASCのインストールがまだでしたら、こちらのウェブページから入手できます：[Arturia Updates & Manuals](#) Arturia Software Centerはページのトップにあります。お使いのシステム (macOSまたはWindows) に合ったバージョンのインストーラーをダウンロードしてください。ダウンロードが完了しましたら、インストーラーを起動して表示される指示に従ってインストール作業を進めてください。その後、以下の作業をします：

- Arturia Software Center (ASC) を起動します。
- お持ちのArturiaアカウントでログインします。
- ASCの画面を下にスクロールしてMy Productsを表示させます。
- Activateボタンをクリックします。

これで完了です！

3. オーバービュー

3.1. プラグインとして動作

Delay EternityはLive, Logic, Cubase, Pro Toolsなど主要なデジタルオーディオ・ワークステーション (DAW) で採用しているVST2, VST3, AU, AAXの各プラグインフォーマットで動作します。ハードウェアとは異なり、複数のEternityを同時使用できます。また、Eternityにはハードウェアにはない大きなメリットが2つあります：

- EternityのパラメーターをDAWのオートメーション機能で自動制御できます。
- Eternityの各パラメーターのセッティングはDAWのプロジェクトとしてセーブされ、次回そのプロジェクトを開いた時にはセーブした時点と全く変わらないセッティングが再現されます。

3.2. チャンネル設定 (モノ/ステレオ)

Eternityはモノまたはステレオで使用できます。モノトラックにEternityを立ち上げた場合は自動的にモノの設定になり、ステレオトラックに立ち上げた場合は自動的にステレオモードになります。

モノとステレオとでは使用できるパラメーターに違いがあります。例えば、モノの場合ディレイタイムは1つだけ表示されますが、ステレオの場合は左右のチャンネルごとに独立したディレイタイムが表示されます。

本マニュアルではステレオモードでの機能をご紹介します。モノモードでは使用できない機能等には注釈を付けてあります。

4. ユーザーインターフェイス

Delay Eternityのユーザーインターフェイスはシンプルでわかりやすいものになっています。インターフェイスは次の4つの大きなセクションに分かれています：



1. **アッパーツールバー**：プラグインの各種設定とプリセットブラウザが入っています。
2. **メインコントロールパネル**：メインのエフェクトパラメーターが入っています。この部分の各パラメーターにつきましては[メインコントロールパネル \[p.10\]](#)のセクションでご紹介します。
3. **アドバンストコントロールパネル**：アドバンストモードのエフェクトパラメーターが入っています。この部分の各パラメーターにつきましては[アドバンストコントロールパネル \[p.16\]](#)セクションでご紹介します。
4. **ローツールバー**：プラグインのバイパススイッチやCPUメーターなどのユーティリティが入っています。

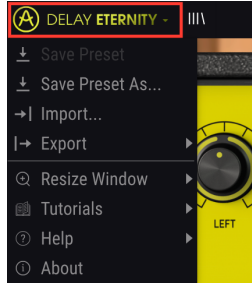
4.1. アッパーツールバー



アッパーツールバーには現行の全Arturiaプラグインで共通の重要な機能が入っています。

4.1.1. プラグインオプション

画面左上のEternityロゴをクリックするとプラグインの各種設定とオプションが入ったメニューが開きます。

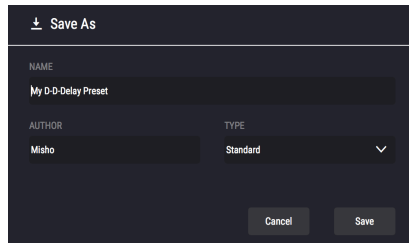


4.1.1.1. Save Preset

このオプションは、選択したプリセットをエディットした後で同じプリセットに上書きセーブする際に使用します。元のプリセットを残しておきたい場合は、Save Preset As...オプションを使用します。

4.1.1.2. Save Preset As...

このオプションを選択すると、これからセーブするプリセットの情報を入力する画面が表示されます。プリセット名のほか、プリセット作成者の名前やプリセットのタイプも入力できます。それぞれのフィールド等に新規の名称を入力することで、独自のタイプを作成することも可能です。これらのプリセット情報はプリセットブラウザが参照することで、後でプリセットをサーチする時に便利です。



4.1.1.3. Import...

このコマンドでプリセットファイルをインポート (読み込み) します。インポートできるのはプリセット1つだけのファイル、または1バンク全体のプリセットが入ったファイルのどちらかです。どちらのファイルもセーブ時に .etex の拡張子が付きます。

このコマンドを選択すると、デフォルト設定のファイルパスを指定した画面が表示されますが、インポートしたいファイルが入っているフォルダを指定し直すことができます。


4.1.1.4. Export Menu

このコマンドでプリセットファイルをエクスポート（書き出し）します。エクスポートにはシングルプリセットとバンクの2種類の方法があります：

- **Export Preset**：シングルプリセット（プリセット1つだけ）のエクスポートです。他のEternityユーザーとプリセット単体をシェアする場合などに便利です。最初にデフォルト設定のファイルパスを指定したセーブ画面が表示されますが、エクスポート先を指定し直したり新規フォルダを作成してからエクスポートできます。エクスポートしたファイルはインポートコマンドで読み込むことができます。
- **Export Bank**：このオプションは、1バンク全体のプリセットをエクスポートする際に使用します。プリセットのバックアップやシェアする際に便利です。

4.1.1.5. Resize Window options (リサイズウィンドウ)

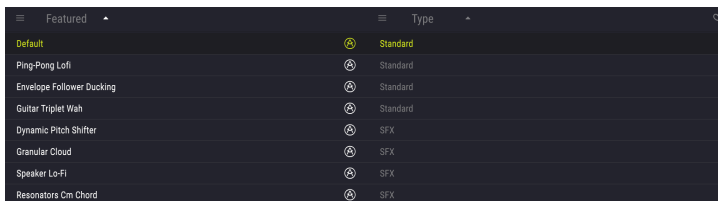
プラグインの画面はオリジナルサイズの60%~200%の範囲でサイズを変更できます。ラップトップなど画面面積が小さい場合は縮小表示にすることでプラグインの画面だけでモニターが埋まってしまうことを防げます。大きなスクリーンやセカンドモニターをご使用の場合は、拡大表示にしてより見やすい状態でコントロールできます。

 画面のリサイズはキーボードショートカットで行えます。Windowsの場合、Ctrlキーを押しながら+/-キーを押すと拡大/縮小します。Macの場合はCmdキーを押しながら+/-キーで拡大/縮小します。

4.1.2. プリセットライブラリ



プリセットの選択方法はいくつかありますが、まずはプリセットライブラリボタン (||||) をご紹介します。このボタンをクリックすると、全ファクトリープリセットとユーザープリセットのリストが表示されます。その時に選択しているプリセットはハイライト表示されます。



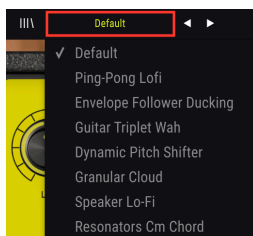
- ロードしたいプリセットをクリックします。
- プリセットを "お気に入り" に登録したい場合は、ハートマークをクリックします。

プリセットライブラリの最上部には、プリセットリストを並べ替えたり、フィルタリング用のオプションがあります。これらを活用して使いやすいようにブラウザ内でのプリセットの表示方法を変更できます。

- プリセットリストの左から最初の列をクリックするとリストをName (名前順) またはFeaturedで並べ替えられます。Featuredというのは、色々なタイプのエフェクトを幅広くご紹介するためにArturiaで登録したプリセットです。
- 左から2番目の列をクリックすると、リストがType (タイプ順) またはDesigner (作成者名順) にソート (並べ替え) されます。
- ハートのアイコンをクリックすると、"お気に入り" に登録したプリセットがリストの上部に出るようにソートします。

i プリセットライブラリでの表示順はプリセットクイックロード・メニューでの表示順にも関係します。プリセットライブラリで特定のタイプのプリセットにフィルタリングすることができ、その後プリセットクイックロード・メニュー (または左右の矢印ボタン) でそのタイプのプリセットを素早く表示でき、プリセットライブラリを開かずに必要なプリセットをすぐに選択できます。

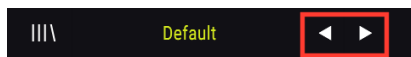
4.1.3. プリセットクイックロード



フル版のプリセットライブラリのほか、プリセットクイックロード・メニューを使ってプリセットを素早く呼び出すことができます。プリセットライブラリで設定したフィルタリングや並べ替えの結果が、クイックロードメニューにも反映されます。例えば、プリセットライブラリで "お気に入り" をリストの上部に表示する設定にしている場合、"お気に入り" に登録されているプリセットがクイックロードのリストの上部に表示されます。

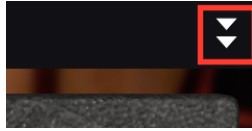
プリセットクイックロード・メニューには、現在選択しているプリセットを削除するオプションもあります。リストの最下部にある **Delete Current** をクリックすると、そのプリセットをライブラリから削除します。

4.1.4. プリセットナビゲーション (Prev/Next)



プリセット選択方法の最後として、プリセットクイックロード・メニューの右にある左右の矢印ボタンでプリセットを1つずつ選択することもできます。プリセットがリスト表示されている状態で、矢印ボタンの左をクリックするとリスト内の1つ前のプリセットに、右の矢印ボタンをクリックすると1つ先のプリセットに切り替えます。なお、プリセットライブラリでフィルタリングや並べ替えを行っている場合、ここで表示されるプリセットのリストにもその結果が反映されます。

4.1.5. アドバンスト・コントロールパネルのスイッチ



アッパーツールバーの右にある二重の矢印ボタンをクリックすると、プラグインのコントロールパネルが拡張したアドバンスト・コントロールパネルに切り替ります。この時に表示される各種コントロールにつきましては、本マニュアルの[アドバンスト・コントロールパネル \[p.16\]](#)セクションをご覧ください。

4.2. ロワーツールバー



Eternityの画面最下部には次の機能が入ったローワーツールバーがあります：

Panic：このボタンをクリックするとEternityからのオーディオが停止します。例えば、Feedbackの設定が高すぎてフィードバックが止まらなくなってしまう、それを強制的に止めたい場合などに便利です。

Bypass：このスイッチでEternityのオン/オフを切り替えます。

CPU Meter：Eternityが消費するコンピュータのCPUパワーの量を表示します。

5. コントロールパネル

このチャプターでは、Eternityのコントロールパネルにある各パラメーターをご紹介します。

各パラメーターはユーザーインターフェイスの2つのセクションに分かれて配置されています。1つはメイン・コントロールパネル、もう1つはアドバンスト・コントロールパネルです。

メイン・コントロールパネルはデフォルト状態で開くパネルです。アドバンスト・コントロールパネルは、アッパーツールバーの右側にある下向きの二重矢印ボタンをクリックすると開きます。

では各パラメーターを見ていきましょう。

i パラメーターの値をマウスで細かくエディットする場合は、Ctrlキーを押しながらドラッグ (Windows) またはCmdキーを押しながらドラッグ (Mac) します。また、右クリックをしてからドラッグすることもできます。

i パラメーターをダブルクリックするとそのパラメーターの値がデフォルト設定にリセットされます。

5.1. メイン・コントロールパネル



5.1.1. インプットの設定とタイムモード



Input Volume : 入力信号のボリュームを調節します。

Stereo Mode : 入力信号をディレイラインに入力させる方法を設定します。

- オフの場合、各入力チャンネル (L/R) からの信号がそれぞれ独立したディレイパスに入ります。
- オンの場合、入力信号はMid (モノ) とSide (ステレオ) 成分に分離され、それぞれ独立したディレイパスに入ります。この場合、Left/Right (Time) ノブの表示がMid/Sideに変わります。Mid (Time) ノブでミッド (モノ) 成分にかかるディレイタイムを、Side (Time) ノブでサイド (ステレオ) 成分にかかるディレイタイムをそれぞれ設定できます。



Stereo ModeスイッチはDelay Eternityがステレオモード動作時にもみ使用できます。

Time Mode : このボタンでディレイタイム変更時の動作方法を選択します。

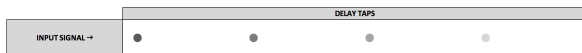
- **Repitch** : テープディレイの動作をシミュレートしたモードです。このモードでディレイタイムを変更すると、それに応じてディレイ音のピッチが変化し、テープ速度を変えたときのようになります。
- **Digital** : スムージング処理をせず、ディレイタイムが瞬時に変わります。このモードでディレイタイムを変更すると、デジタルらしいスタッターな感じで変化します。この場合、ディレイ音のピッチが変わることはほとんどありませんが、LFOやエンベロープフォロワーでディレイタイムにモジュレーションをかけることでディレイ音のピッチをある程度変えることができます。
- **Fade** : ディレイタイムの変更時にスムージング処理を入れるモードです。このモードではLFOやエンベロープフォロワーでディレイタイムにモジュレーションをかけている場合でも、ディレイタイムの変更時にディレイ音のピッチが変わることはありません。

5.1.2. ディレイモード

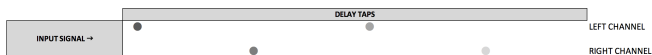



Delay Mode : 5種類のモードから1つを選択できます。DualとDual Serialモードはディレイラインを2つ使用し、その場合はどちらかのディレイラインを選択してからそのパラメーターをエディットします。ディレイラインを2系統使用したモードは、複雑なディレイパターンや2つのディレイラインが絡み合うようなエフェクトを作る際に非常に便利です。

- **Single** : ディレイラインを1つのみ (Line 1のみ) 使用した、シンプルなディレイモードです。

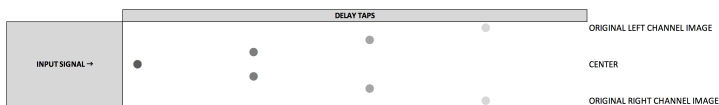



- **Ping Pong** : デレイラインを1つのみ使用したモードで、デレイ音が左右のチャンネル間を交互に飛び交うピンポンデレイのモードです。



 Ping Pongモードは、ステレオモード動作時にのみ使用できます。

- **Pan** : こちらもデレイラインを1つのみ使用したモードですが、少しひねりが入っています。このモードでは、デレイ音は常にセンター定位からスタートして、そこから徐々に入力信号のステレオイメージに広がっていきます。このモードを選択すると、Offsetノブの名称がPan Speedに変わり、定位が広がっていくスピードを調節できます。



 Panモードは、ステレオモード動作時にのみ使用できます。

- **Dual** : デレイラインを2つ使用したデュアルデレイモードです。このモードでは、2つのデレイラインが平行に動作し、Line 1と2が独立して動作しますので、Line 1の設定を変更してもLine 2の設定に影響することはありません。



- **Dual Serial** : こちらもデレイラインを2つ使用したモードですが、このモードではLine 1の後ろにLine 2が続くシリアル動作です。そのため、Line 1の設定を変更するとLine 2でのデレイ音にも影響します。



5.1.3. 各ディレイラインのコントロール



2つのディレイラインはいずれも同じパラメーター構成です。Line 1はデフォルトでDualにセットされています。Line 2はディレイモードをDualかDual Serialにセットした場合にのみ使用できます。

Left/Right : それぞれのチャンネルのディレイタイムを設定します。M/Sモードがオンの場合はミッドとサイドチャンネルのディレイタイムをそれぞれ設定します。各チャンネルのディレイタイムは個別に設定できるほか、リンクさせることも可能です。また、ディレイタイムをDAWのテンポに同期させることもできます。

i モノモード動作時は、使用できるディレイタイムのノブは1つのみとなります。

Link : このボタンでリンクのオン/オフを切り替えます。オンの場合、どちらかのディレイタイムのノブを回すと、もう一方の設定も変化します。

i Linkボタンはステレオモード動作時にのみ使用できます。

Sync : このボタンでディレイタイムをDAWのテンポに同期させてテンポに同期したディレイにするかどうかを選択します。オンの場合、ディレイタイムの値が音符単位になります。

Offset : このノブで左右のディレイのタイミングを微妙にズラしてより広がりのあるディレイを作ります。ノブがセンター位置の場合、オフセットがかかっていない状態です。センター位置からノブを左へ回していくとL-chのディレイタイムが少しずつ長くなり、右へ回した場合はその逆になります。ステレオワイド効果を出すためには、Stereo Widthノブをプラスの設定（ノブの向きがセンター位置よりも右）にしておく必要があります。また、ディレイモードでPanを選択している場合、Offsetノブの名称がPan Speedに変わります。

i Offsetノブは、ステレオモード動作時にのみ使用できます。

Feedback : ディレイ音を再びディレイラインに入力する量（フィードバック量）を調節します。設定を高くすると、ディレイのリピートが長く続き、最終的には自己発振を起こして歪んだフィードバックの質感になります。

i フィードバックが止まらなくなってしまった場合は、ローツールバーにあるPanicボタンをクリックすると停止します。

5.1.4. ビットクラッシャーのパラメーター



各ディレイラインは個別にビットクラッシャーをかけることができ、ザラッと歪んだディレイ音にできます。

Resolution：このノブでディレイ音のビット数を下げていきます。ビット数を低い設定にするほど音が劣化して歪みが深くなります。

Downsample：サンプルレートを下げることで別のタイプの歪みを作れます。サンプルレートが下がるほど、エイリアシング (折り返しノイズ) が顕著になり、なかったはずの音が聴こえてきます。

Line Enable：このボタンで各ディレイラインでのビットクラッシャーのオン/オフを切り替えます。Line 2はディレイモードをDualかDual Serialにセットした場合にのみ使用可能になります。

5.1.5. フィルターのパラメーター



各ディレイラインは個別にフィルターをかけることができ、ディレイ音の音質を多彩に変化させることができます。

Filter Mode：フィルターのモードを次の3タイプから選べます：-6dB, SEM, 36dB

Filter Type：フィルターのタイプを次の3タイプから選べます：ローパス, バンドパス, ハイパス

Cutoff：フィルターのカットオフ周波数を調節します。


Resonance：フィルターのレゾナンスを調節します。レゾナンスはフィルタモードでSEMを選択した場合にのみ使用できます。

Line Enable：このボタンで各ディレイラインでのフィルターのオン/オフを切り替えます。Line 2はディレイモードをDualかDual Serialにセットした場合にのみ使用可能になります。

5.1.6. ミックスセクションのパラメーター




Stereo Width : 左右チャンネルのディレイのステレオ間の広がり調節します。ノブを最低値にすると左右のディレイのチャンネル分離がなくなります。センター位置の場合は入力信号と同じステレオ分離になります。センター位置から右にノブを回していくと、サイド (ステレオ) 成分が強調されていきます。なお、このパラメーターは入力信号にサイド (ステレオ) 成分が含まれていないと効果が出ません。入力信号がモノの場合はステレオワイド効果が生じません。

 Stereo Widthはステレオモード動作時にのみ使用できます。

Echo Volume : ディレイ音のボリュームを調節します。

Dry/Wet : Eternityから出力されるディレイ音 (ウェット) とディレイがかかっていない音 (ドライ) のミックスバランスを調節します。ノブを左いっぱいに戻した状態にすると、ドライのみになります。ノブを右いっぱいに戻した状態にすると、ウェットのみになります。

 Eternityをセンドエフェクトとして使用する場合は、このノブを最高値にセットしておくのが一般的です。そうすることでドライ成分の不要な増幅を回避できます。

5.2. アドバンスト・コントロールパネル



ここからは、アドバンスト・コントロールパネルの各パラメーターをご紹介します。アドバンスト・コントロールパネルは、アッパーツールバーの右にある下向き二重矢印ボタンをクリックすると開きます。

5.2.1. インプットイコライザー



インプットイコライザーは、ディレイラインに入る前段階で入力音の音質を調整します。インプットイコライザーには3つのフィルター(ハイパス、ローパス、ピーク)があります。



インプットイコライザーはアドバンストモード時のみ使用できます。アドバンスト・コントロールパネルを開くには、アッパーツールバーの右にある下向き二重矢印ボタンをクリックします。

On/Off: インプットイコライザーのオン/オフを切り替えます。

LP (Low Pass) Freq: ローパスフィルターのカットオフ周波数を調節します。設定した周波数よりも低い成分のみがフィルターを通過します。これにより、入力信号の不要な高音成分をカットし、より柔らかで抑えた感じのエコー/リバーブ音にできます。カットオフ周波数は1kHz~20kHzの範囲で調節できます。ノブを最高値 (OFF) にセットするとローパスフィルターがオフになり、ローパスフィルターによる音質変化がない状態になります。

Peak Freq: ピークフィルターの中心周波数を調節します。ピークフィルターは、特定の周波数付近の帯域のみをブーストまたはカットしたい場合に使用します。

Peak Gain: ピークフィルターのブーストまたはカット量を調節します。センター位置で増減なしの状態 (ピークフィルターによる音質変化がない状態) になります。

Q: ピークフィルターの帯域幅を調節します。設定を高くすると帯域幅が狭くなり、よりピンポイントなブースト/カットができます。設定を低くすると帯域幅が広くなり、より広範なブースト/カットができます。

HP (High Pass) Freq: ハイパスフィルターのカットオフ周波数を調節します。設定した周波数よりも高い成分のみがフィルターを通過します。これにより、入力信号の不要な低音成分をカットし、よりブライトなエコー/リバーブ音にできます。カットオフ周波数は20Hz~1.0kHzの範囲で調節できます。ノブを最低値 (OFF) にセットするとハイパスフィルターがオフになり、ハイパスフィルターによる音質変化がない状態になります。

5.2.2. エンベロープフォロワー



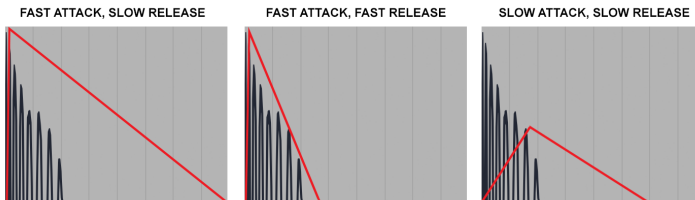
エンベロープフォロワーは、入力音の音量変化を検出し、その変化でエフェクトパラメーターにモジュレーションをかけるというものです。これにより、入力信号のダイナミクスの変化で複雑なリズムのディレイエフェクトなどを作り出すのに非常に効果的です。例えば、エンベロープフォロワーでディレイのボリュームにモジュレーションかける設定をした場合、入力音の音量に応じてディレイ音の音量を上げたり、逆に下がるように変化させることができます。

i エンベロープフォロワーはアドバンスモード時にのみ使用できます。アドバンスト・コントロールパネルを開くには、アッパーツールバーの右にある下向き二重矢印ボタンをクリックします。

Input Gain : エンベロープフォロワーの入力レベルを調節します。この設定は、どのようなモジュレーションにするかを定める重要なポイントになります。例えば、入力信号が小さすぎる場合、Input Gainの設定を高くしてエンベロープフォロワーのかかりを良くする必要がある場合もあります。

Attack : 入力信号の音量が上がった時の、エンベロープフォロワーの反応スピードを調節します。

Release : 入力信号の音量が下がった時の、エンベロープフォロワーの反応スピードを調節します。




■ INPUT AUDIO WAVEFORM / AMPLITUDE
■ RESULTING MODULATION ENVELOPE

入力音の音量変化とアタック/リリース設定の違いによるエンベロープフォロワー出力結果の違いの例

Destination : このメニューで、エンベロープフォロワーでモジュレーションをかけるエフェクトパラメーターを選択します。ほとんどのエフェクトパラメーターを選択できます。

Amount : Destinationメニューで選択したパラメーターにかけるモジュレーションの量を調節します。ノブをセンター位置にした場合、モジュレーションがかからない状態になります。ノブをセンター位置から左へ回すと、ターゲットパラメーターにネガティブ (マイナス方向) のモジュレーションがかかる設定になり、右へ回すとポジティブ (プラス方向) のモジュレーションになります。

 エンベロープフォローワーでのモジュレーションはユニポーラですので、モジュレーションがかかる方向はAmountノブの設定によりポジティブまたはネガティブどちらかになります。


5.2.3. LFO



LFOはロー・フリケンシー・オシレーター (Low Frequency Oscillator) の略です。一般的なシンセサイザーのオシレーターとは異なり、LFOは音を出すためのものではなく、別のパラメーターの値にモジュレーションをかけ、エフェクト音に変化や動きを付けるために使います。

LFOは、例えばテンポ同期させてフィルターのカットオフをコントロールしてダブステップのウォブル音を作るといったような極端なことにも使用できますし、より穏やかで微妙なモジュレーションや音の変化を作り出す場合にも使用できます。

Delay EternityはLFOを2基内蔵し、別々に使用したりリンクさせて複雑なモジュレーションを作ることができます。各LFOとも2つまでのパラメーターをコントロールできます。

 LFOの各パラメーターは、アドバンスモードで使用できます。アドバンス・コントロールパネルを開くには、画面右上の下向き二重矢印ボタンをクリックします。

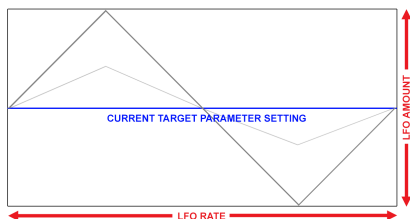
Shape : ターゲット (モジュレーション先) のパラメーターを変化させる波形を切り替えます。波形はサイン波、ノコギリ波、ランプ波、三角波、矩形波、サンプル&ホールドの6種類です。最初の5波形は周期的な波形で、サンプル&ホールドはランダムな変化になります。サンプル&ホールドを選択した場合は、LFOの周期 (Rateノブで設定) ごとにランダムな値を生成します。ターゲットパラメーターに周期的でない変化を付けたい場合、非常に便利です。

Rate : このノブでLFOの周期 (スピード) を調節します。ノブを左へ回していくほど周期がゆっくりとなり、右へ回していくほど周期が速くなります。ノブの下にあるSyncスイッチで、LFOの周期をDAWのテンポに同期させることができます。

Sync : LFO周期をDAWのテンポに同期させるかどうかを切り替えます。テンポに同期したエフェクトのモジュレーションを作りたい場合に便利です。オンの場合、Rateノブの値は音符単位になります。オフの場合はミリ秒単位です。

Destination : LFOでモジュレーションをかけるパラメーターを、このメニューで選択します。エフェクトパラメーターのほとんどを選択できます。

Amount : ターゲットパラメーターにかけるモジュレーションの深さを調節します。ノブを左へ回すほどモジュレーションが浅くなり、変化が小さくなり、右へ回していくほどより深いモジュレーションになっていきます。



 LFOによるモジュレーションはプラスとマイナスがあるバイポーラですので、ターゲットパラメーターはその設定値を中心に上下に変化します。

Link : このボタンをオンにするとLFO 2がLFO 1にリンクし、LFO 2のSyncボタンの設定はLFO 1のSyncボタンの設定と同じになり、LFO 2のRateの設定はLFO 1のRateノブで変化し、Ratioノブでその倍率を設定します。

Ratio : このノブでLFO 1の周期に対するLFO 2の周期の倍率を設定します。LFOのSyncボタンがオンの場合、値の表示が音符単に変わります。LFOのSyncボタンがオフの場合は、値は0.1x~10xの倍率表示になります。

5.3. 終わりに

これでユーザーマニュアルは終わりです。私たちがこのプラグインを楽しんで開発したのと同じように楽しんでお使いいただき、素晴らしい楽曲やサウンドを作り出していただければ幸いです。

6. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンサーとしてお客様（被ライセンサー）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリア社への書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリア社は、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリア社は、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとしてOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリア社は、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリア社は、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 著作権 ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのソフトウェアの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリア社は通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間か30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリア社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む) について、アートリア社が当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。